

THE NATIONAL

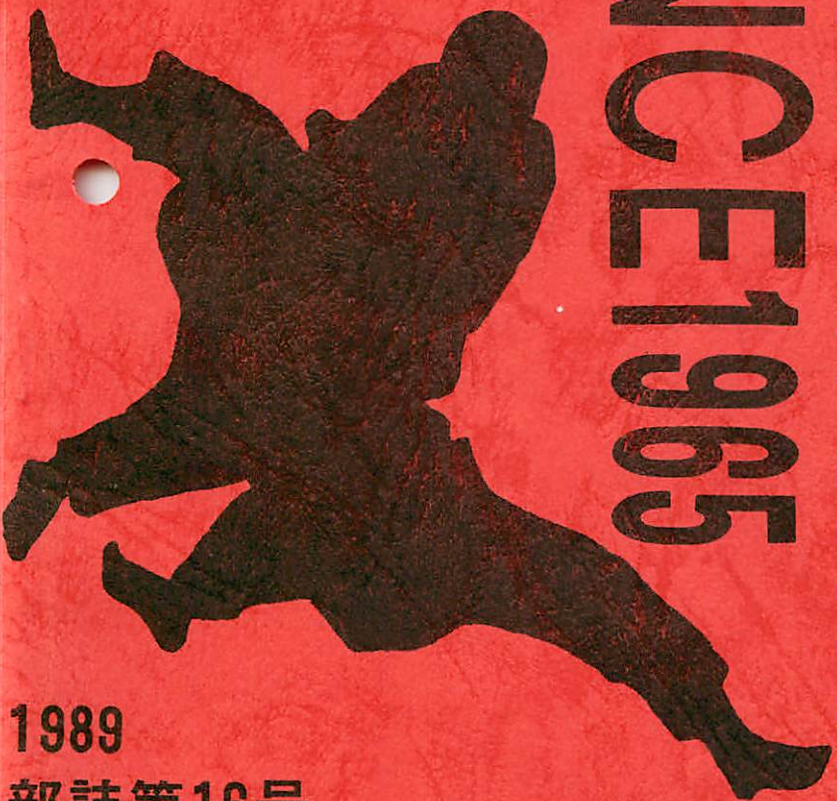
DEFENCE ACADEMY

SINCE 1965

少年誌

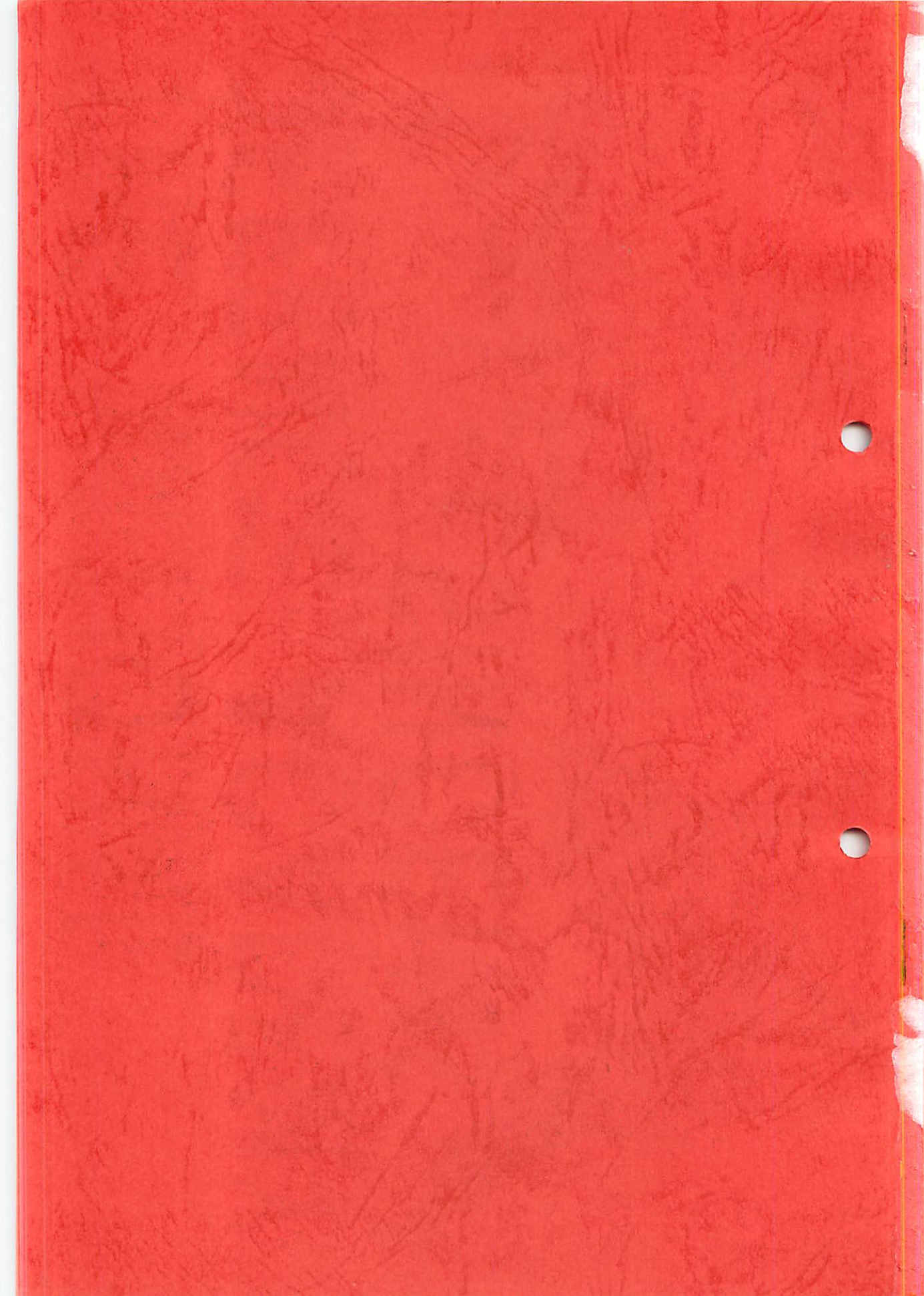
11
2
金

25th 周年誌



1989

部誌第16号



目次

・挨拶	部長 顧問 監督	教授 (化学) 教授 (電気) 一等空尉	菅野 丸川 坂本	等 武志 卓己	1 2
・学生寄稿	3 5 期主将 3 4 期主将 3 5 期統制長 3 5 期三年係 3 6 期 3 7 期		戒田 松永 坂本 川嶋 藤岡 芹澤	重雄 康則 雄一 和之 史生 秀樹	3 4 4 5 5
・平成元年度 防衛大学校 少林寺拳法部					
○部長。顧問等					6
○第3 5 期幹部					7
○部員					7
・平成元年度成果報告					8
・年間計画					9
・創立2 5 周年記念特集					
○少林寺拳法部誕生の思い出					10
○少林寺拳法部2 5 年の成果					12

~~~~~奥平会報~~~~~

・奥平会長挨拶	
・平成元年度奥平会活動概要	
・今後の活動予定	
・平成元年度奥平会本部	
・平成元年度会計報告	
・防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則	
・奥平会名簿	
・編集後記	

新しい発展に向けて

部長 菅野 等

合掌

昭和が終わり平成になった途端、国内はもとより国際的にも激動の年と呼ぶべき多くの事件や変動がありました。東欧諸国の変革の嵐は、他からの批判を一切受け付けぬ共産主義の崩壊を意味する大きな政治変動のように思われますが、もう少し時間が経過しないと成功するかどうか分からないかも知れません。しかし、確実に世界が新しい方向に向かって動き出した事は間違いないに思われます。

世界から我等の少林寺拳法部に目を転じてみると、今年度は少林寺拳法部にもたくさんの出来事がありました。しかも、めでたい事の多い喜ばしい年でもありました。まず、6月3日に少林寺拳法部創立25周年祝賀会を、訓練部長、田村、神田両師範御列席のもとに盛大に行う事ができました。OB諸兄とここまで大きくなった少林寺拳法部を祝い、新たな発展を祈念した楽しい会でした。

学生の活躍では、関東学生大会（最優秀1つ、優秀3つ）、全自衛隊大会（最優秀3つ、優秀1つ）、全日本学生大会（最優秀3つ、優秀1つ）と今年度も非常によい成績を残すことができました。田村、神田両師範、坂本監督の指導のもと松永主将を中心にして厳しい練習をした成果と言う事ができると思います。また少林寺拳法部の顧問に、OBを含めて12名もの研究科学生が所属すると言う大きな頭脳集団になり、文字どおり文武両道の少林寺拳法部になりつつあることは特記してよいことのひとつであります。さらに、23年余にわたり部長として防衛大の少林寺拳法部を育み指導してこられた丸川先生が永年部長の褒賞を学校長より受けられたことを、全国のOB諸兄に報告して共に喜びたいと思います。

創立25周年を経過してみると、防衛大少林寺拳法部は全国規模の大会で2つ、3つの優勝は当たり前というまでに成長したわけですが、私は学生諸君に少林寺で優勝するだけでなく学業でも優勝するようにハッパをかけております。若いうちはより高い目標を掲げて突き進むことが必要と考えているからですが、学生諸君は自分達の新しい実績を作るべく毎日勉学と心身の鍛錬に励んでおります。「高い目標」の達成のためにも、今後とも先輩諸兄の暖かい御支援と御鞭撻をよろしくお願いいたします。

結手

後援挨拶

顧問 丸川 武志

合掌

全国に御在勤のOB諸兄には益々御活躍中のこととお慶び申し上げます。今年、わか少林寺拳法部は二十五周年を迎え、六月には東京において多数のOB出席の下に盛大な祝賀会を催すことができ誠に御同慶に存じております。私こと、昨秋部長を交代して以来、引き続き顧問を勤めておりますが、その節は部並びにOB会から結構な記念品を頂戴致し、改めて厚く御礼申し上げます。この一年、三十四期生の主導による部活動が展開されてきましたが、菅野部長の指導の下に依然として大活躍を続け、その赫々たる成果は別途報告されるとおりであります。また今年にはOB会長に新たに十四期の中原（隆）一佐が就任され、以来機能的な会の運営を目指して努力されていると同っております。このような盛況をみるにつけても、草創期からの発展の経緯が部員の面影と共に走馬燈のごとくよみがえって参ります。先人の成した努力の結晶が今日の伝統へとつながるわけですが、この中には各期ごとの反省と創意工夫が重要な要素をなしております。この度政権を受けた三十五期生及び以降の部員諸君もよくこのことに意を用い、耐えず改善を求めながら不屈の精神をもって頑張ってくださいと願うものです。

間もなく新年を迎えようとしております。向寒の折から部員並びにOB諸兄の御健勝を祈り申し上げます。

結手

監督挨拶

一等空尉 坂本 卓己

合掌

早春の候、OB各位におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。7年振りに防大に戻り母校および少林寺拳法部に直接恩返しができる機会を与えられたことを非常に嬉しく思い感謝しています。昨年は各種大会での立派な成果はもとより、6月には創設25周年の祝賀行事を盛大におこない、改めて防大少林寺拳法部の伝統及び素晴らしさを認識しました。これもひとえに全国500名の奥平会会員並びに現員部員の日々の努力の賜物であり、とりわけ我が部創設のために尽力された奥平先生、丸川前部長のおかげであると思います。開祖が常々言われていた「すべては人の質にある」という言葉のとおり、良い伝統は良き人々によって創られてきたことを痛感させられました。

今後もこの良き伝統、良き人の和を大切に、益々素晴らしいものとするため皆様と共に頑張りたいと思いますので、今後もよろしく御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

最後にOB各位の益々の御健康と御発展を心からお祈り申し上げます。

結手

新主将の抱負

35期主将 戒田 重雄

合掌

入部以来経つこと早や幾星霜、遂に我々35期が政権を担当することになりました。諸先輩方の築きあげられた光輝ある我が部の伝統を受け継ぎ、更に高め一層発展させていく所存です。

現在我が防大少林寺拳法部は大会において幾多の輝かしい戦績をあげ、まさに日本中の大学拳法部の頂点に君臨しております。が、大会制度や防大改革等、内外に幾つかの問題を抱えていることもまた事実であります。

そこで私は今年の部の目標として、「精強且つ明朗」を掲げました。「精強」とは、つまり、演武・乱捕・体力・気力とすべての面での強さを追求することであり、そのためにも日々の修練は厳しいものであらねばならないのは当然ですが、終われば明るく「明朗」な校友会を目指し、全力を挙げて部を運営していく覚悟です。

我々35期も全員一丸となって部の発展のため努力してまいりますので諸先輩方、今後共変わらぬ御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

結手

四年間を振り返って

34期 主将 松永 康則

合掌

我々34期が引退した現在、四年間を振り返ってみると、日々の練習はもちろん、合宿各種大会、団演等様々な思い出が浮かんできます。そして、その中で培った友情は何ものにも替えられない財産となりました。

防大では種々の改革が行われていますが、校友会が大きな役割を果たしていることは変わっていません。その中で我が少林寺拳法部は諸先輩の築かれたすばらしい伝統を持つ防大を代表するクラブです。

私が政権を担当して常に思っていたことが、この受け継いだ伝統を向上させ、次期政権に渡すということです。このため、この一年間は試行錯誤の連続でした。時に挫折しそうになった私を支えてくれた34期のみんな及び部長、監督、顧問の皆さんには感謝の念でいっぱいです。

現在、卒研等で忙しく顔を出せずにいますが、ランニングの時の気合を聞くといつも頼もしく感じています。後輩諸君には、防大は常に他大学の目標であり、また学生舎においては中心的人間であらなければならないということを実感し、日々精進し、心・気・力ともに素晴らしい人間になってもらいたいと思います。

最後に、OB各位におかれましては、今後も陰に陽に防大少林寺拳法部への益々の御支援、御指導の程、宜しくお願い致します。

結手

新政権における抱負

35期 坂本 雄一

合掌

我々35期が入部してはや3年、ついに我々が政権を執ることになりました。戒田主将を中心として、35期全員が一丸となって部を運営し、日々練習に励んでおります。しかしながら今まで上から指導を受ける立場であったものが、突如として反対の指導をする立場になったわけですから、35期各人の不安は隠せないものがあるのも事実であります。また、今まで諸先輩の方々から築いてこられた、重く、輝かしい伝統に負けず、それを継承し、我々が新たに防大少林寺の伝統を築きあげることができるべく努力していかねばならないと考えています。そのためには、指導する我々が技術の向上を図ることはもちろん、下級生の実力をいかにしてつけていくかが最大の任務であり責任であると思います。

下級生は、柔をして上手く強くなれることはないということを知覚して、演武・乱捕共に強くなるよう思考錯誤を忘れず、上級生を信頼してついてきてくれることを願望する。

結手

新政権における抱負

35期 川嶋 和之

合掌

我々35期が少林寺拳法を始めて3年が経ち、早くも政権を譲り受けることとなりました。

新政権も何かと落ち着き、主将・副将を中心として更に上手く、更に強くなろうと後輩達と共に汗を流す毎日です。そして後輩達をこれから指導していく上で、我々よりも上手く、強くしてやろうという気持ちと、その反面、我々が32、33、34期から受け継いだ輝かしい伝統、技術等を確実に伝えることができるかという不安とが交錯した状態であることは否定できない事実です。

諸先輩方が築かれた伝統を、より高めることはあっても、廃れさせることが許されない指導者の立場に立って新めてその重責というものを感じています。

しかし我々は、過去の栄光に驕ることなく今までの修行で培った団結心と信念を以て、教えながらも自らも更に学び、努力精進する所存です。

諸先輩方、今後とも何卒温かい御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

結手

二学年の抱負

36期 藤岡 史生

合掌

私達36期が防衛大学校少林寺拳法部に入部して、約一年がすぎた平成元年3月、春合宿を前にして掲げた目標が「防大拳士たれ」であった。考えてみると今まで約一年半の間少林寺をやってきて、我々はいろんな意味で成長したと思います。技はもちろん、気力、体力、同期の大切さ、など。これも今まで御指導していただいた33・34期先輩をはじめ、部長、監督、顧問の方々の御陰だと深く感謝しております。

政權も代わり、我々も、部の中堅として位置するようになりました。これから先は、一学年を支え、また己自身も技、体力の向上に努め、部全体を盛り上げる役目があると思います。そのために同期で互いに理解しあい、団結することが不可欠であると思います。最後に36期は、各大会において防大少林寺の名に恥じない成績を修めてきましたが、これに甘んじることなく、防大拳士とは何たるかを自覚し、日々、邁進していきます。

結手

一学年の抱負

37期 芹澤 秀樹

合掌

我々一学年は、強くなり、そして日本一を目指すという野心に燃え、平成元年5月に少林寺拳法部に入部しました。防大少林寺拳法部一学年から二学年になる準備段階に入っている現在、我々にはその野心のみならず、防大少林寺拳法部の伝統の重さを感じ、部員としての誇りや自分に対する自信を身に付けることを大切にしなければなりません。それをすぐさま達成しようと思っても、何一つとっても上級生の足元にも及ばない我々が出来るわけがありません。しかし、上級生、監督、顧問の方々の御指導に助けられ、一人一人が日々努力することによって、技、気力、体力を身につけ、それらを必ず達成しよう、同期一同決心しております。今まで技術の未熟な我々に対して求められていたものは、「元氣」でした。しかし、あと数ヶ月で下級生を迎える我々には、残り全てを身につけなくてはなりません。これからは同期の団結を固く、そしてお互いに切磋琢磨していくことをあらためて決意するものです

結手

平成元年度 防衛大学校 少林寺拳法部

○部長 - 顧問等

部長 菅野 等 (教授)
 師範 田村 倉蔵
 神田 憲和
 監督 坂本 卓己 (25F)
 顧問 丸川 武志 (教授)
 安藤 恒夫 (18A)
 山川 純次 (24A)
 石川 哲也 (25A)
 石山 暁 (26A)
 富野 博 (国学院26F)
 藤原 修 (28A)

顧問 岡澤 武彦 (28A)
 内田 公明 (28N)
 立林 剛 (29A)
 新保 博徳 (29A)
 水上 義仁 (29A)
 西村 政恭 (29F)
 米村ゆかり (福岡29A)
 池永 博和 (30A)
 岩熊 真司 (30A)
 中川 洋行 (30A)
 山口 芳正 (30A)

○3 5 其月章全音

主将 4 1 2 (3) 戒田 重雄
 副将 (演武) 1 4 2 (3) 木場 元大
 副将 (乱捕) 3 4 2 (3) 中村健太郎
 統制長 3 2 2 (3) 坂本 雄一
 道場長 4 4 2 (3) 森泉 周
 三年係 4 1 2 (3) 川嶋 和之
 4 4 2 (3) 森泉 周
 二年係 4 2 2 (3) 瀬戸口 淳
 2 4 2 (3) 中本 尚明
 一年係 1 2 2 (3) 中澤 武志
 2 2 2 (3) 三浦 則文
 3 4 2 (3) 袖之原公郎

訓練係 1 3 2 (3) 安藤 和幸
 2 1 2 (3) 久永 義孝
 師範係 4 1 2 (3) 川嶋 和之
 主務 4 3 2 (3) 堀 修二郎
 4 2 3 (2) 加藤 寛和
 庶務 2 3 2 (3) 福本 博氏
 会計 2 3 2 (3) 中原 俊行
 安全・渉外係 1 4 3 (2) 藤井 照己
 学連・OB係 1 4 2 (3) 馬淵 貴史

○部員

・34期

小 隊	要員	専攻	氏 名
1 1 1	陸上	電氣	田中 一 要
1 1 1	航空	航工	河田 成治
1 1 2	陸上	航工	竹内 博忠
1 3 1	海上	機械	富山 修
1 4 1	陸上	機械	石黒太美英
1 4 1	航空	航工	羽田 充伸
2 2 2	陸上	機械	橋本 浩二
2 3 1	陸上	電氣	氷室正一郎
3 1 1	海上	航工	丹羽 満良
3 2 1	航空	機械	田代 秀也
3 1 2	海上	電氣	松本 正史
3 4 1	陸上	管理	松永 康則
3 4 1	航空	管理	小笠原卓人
4 1 1	陸上	機械	能井 智治
4 1 1	陸上	応物	平林 理
4 2 1	陸上	機械	田丸 正勝
4 2 1	陸上	応物	筒井 鋭達
4 4 1	陸上	応物	篠原 康一

・35期

小 隊	要員	専攻	氏 名
1 2 2	航空	機械	中澤 武志
1 3 2	陸上	管理	安藤 和幸
1 4 2	陸上	管理	木場 元大
1 4 2	陸上	管理	馬淵 貴史
1 4 3	航空	電氣	藤井 昭己
2 1 2	陸上	機械	久永 義孝
2 2 2	海上	機械	三浦 則文
2 3 2	陸上	電氣	福本 博氏
2 3 2	海上	機械	中原 俊行
2 4 2	陸上	機械	中本 尚明
3 2 2	陸上	機械	坂本 雄一
3 4 2	陸上	機械	中村健太郎
3 4 2	陸上	応物	袖之原公郎
4 1 2	陸上	電氣	川嶋 和之
4 1 2	陸上	国関	戒田 重雄
4 2 2	陸上	応化	瀬戸口 淳
4 2 3	海上	機械	加藤 寛和
4 3 2	航空	国関	堀 修二郎
4 4 2	海上	国関	森泉 周

応化=応用化学 応物=応用物理
 国関=国際関係論 航工=航空工学
 理工=理工学専攻 人社=人文社会学専攻

・36期

小 隊	要員	専攻	氏 名
1 1 3	陸上	機械	中村 英昭
1 2 3	陸上	機械	村上 至
1 2 3	陸上	応物	榎窪 正和
1 2 3	陸上	応物	脇本祐一郎
1 4 3	海上	電氣	鳥越 要
2 1 3	陸上	航工	藤岡 史生
2 1 3	陸上	航工	倉田 一
2 4 3	航空	管理	綿森 昭示
3 1 3	陸上	電氣	井上 勝
3 2 3	陸上	電氣	岩村 伝法
3 3 3	陸上	電氣	日高 邦登
3 3 3	陸上	電氣	山田 武彦
3 3 3	陸上	応化	福島 浩二
3 3 3	陸上	応化	矢口 鑑
4 1 3	陸上	電氣	前田 尚男
4 4 3	陸上	機械	大北 知史

・37期

小 隊	要員	専攻	氏 名
1 1 4		人社	古田 和之
1 2 4		理工	大山 剛
1 2 4		理工	富原 大治
1 4 4		理工	平瀬 慎
1 4 4		理工	村岡 靖郎
2 1 4		理工	中居 景
2 2 4		理工	横山 徳隆
2 4 4		理工	岩本 正行
2 4 4		理工	鈴木 隆弘
3 3 4		理工	九重路 剛
3 3 4		理工	矢坂 勝良
3 4 4		理工	河合 寿士
3 4 4		理工	芹澤 秀樹
4 1 4		理工	児玉 洋
4 1 4		理工	藤崎真一郎
4 1 4		理工	山下 豊
4 2 4		理工	石原 寿英
4 2 4		理工	高取 哲郎
4 3 4		理工	木下 治信
4 3 4		理工	塚原 敏夫
4 3 4		理工	吉田 文二
4 4 4		人社	内藤 茂雄
4 4 4		人社	森安 宏徳

平成元年度成果報告

関東学生大会

級拳士の部	最優秀賞	3 3 3 (2)	矢口 鑑	4 1 3 (2)	前田 尚男
少拳士の部	優秀賞	1 1 1 (4)	田中 一要	4 2 1 (4)	筒井 鋭達
衆敵闘法の部 (有段者の部)	敢闘賞	1 1 2 (4)	河田 美英	1 4 1 (4)	石黒太美英
衆敵闘法の部 (級拳士の部)	優秀賞	3 1 1 (4)	丹羽 満良	3 4 1 (4)	小笠原卓人
団体演武の部	優秀賞	1 2 3 (2)	榎窪 正和	1 2 3 (2)	脇本裕一郎
		2 1 3 (2)	藤岡 史生	2 4 3 (2)	綿森 昭示
		1 2 2 (3)	中澤 武志	1 3 2 (3)	安藤 和幸
		1 4 2 (3)	木場 元大	2 2 2 (3)	三浦 則文
		3 2 2 (3)	坂本 雄一	3 4 2 (3)	中村健太郎
		3 4 2 (3)	袖之原公郎	4 1 2 (3)	川嶋 和之
		4 1 2 (3)	戒田 重雄	4 2 2 (3)	瀬戸口 淳
		4 3 2 (3)	堀 修二郎	4 4 2 (3)	森泉 周

全日本学生選手権

級拳士の部	優秀賞	3 4 4 (1)	芹澤 秀樹	4 2 4 (1)	高取 哲郎
准拳士の部	最優秀賞	2 1 3 (2)	藤岡 史生	4 1 3 (2)	前田 尚男
中拳士の部	敢闘賞	1 1 1 (4)	田中 一要	3 4 1 (4)	松永 康則
衆敵闘法の部	最優秀賞	1 1 2 (3)	竹内 博忠	1 4 1 (4)	石黒太美英
		3 1 1 (4)	丹羽 満良	4 2 1 (4)	筒井 鋭達
団体演武の部	最優秀賞	1 2 2 (3)	中澤 武志	1 3 2 (3)	安藤 和幸
		1 4 2 (3)	木場 元大	2 1 2 (3)	久永 義孝
		2 2 2 (3)	三浦 則文	2 4 2 (3)	中本 尚明
		3 2 2 (3)	坂本 雄一	3 4 2 (3)	中村健太郎
		4 1 2 (3)	川嶋 和之	4 1 2 (3)	戒田 重雄
		4 2 2 (3)	瀬戸口 淳	4 4 2 (3)	森泉 周

全自衛隊大会 (平成元年度 11月23日)

級拳士の部	最優秀賞	3 3 4 (1)	九重路 剛	4 3 4 (1)	木下 治信
初二段の部	最優秀賞	1 4 3 (2)	鳥越 要	3 1 3 (2)	井上 勝
三段以上の部	優秀賞	2 3 1 (4)	氷室正一郎	4 1 1 (4)	能井 智治
団体演武の部	最優秀賞	1 1 3 (2)	中村 英昭	1 2 3 (2)	村上 至
		1 2 3 (2)	榎窪 正和	2 1 3 (2)	倉田 一
		2 4 3 (2)	綿森 昭示	3 2 3 (2)	岩村 伝法
		3 3 3 (2)	日高 邦登	3 3 3 (2)	福島 浩二

横須賀市民大会

級拳士の部	最優秀賞	2 1 4 (1)	中居 景	4 1 4 (1)	山下 豊
	優秀賞	1 2 4 (1)	大山 剛	4 3 4 (1)	吉田 文二
有段者の部	最優秀賞	1 2 3 (2)	脇本祐一郎	4 4 3 (2)	大北 知史

全自衛隊大会 (昭和63年度 3月15日)

級拳士の部	最優秀賞	1 2 3 (2)	村上 至	1 4 3 (2)	鳥越 要
初二段の部	優秀賞	1 4 2 (3)	馬淵 貴史	3 4 2 (3)	中村健太郎
中拳士以上の部	最優秀賞	監督	坂本 卓己	3 4 1 (4)	松永 康則
団体演武の部	最優秀賞	1 1 1 (4)	河田 成治	1 1 2 (3)	竹内 博忠
		1 4 1 (4)	石黒太美英	2 3 1 (4)	氷室正一郎
		3 1 1 (4)	丹羽 満良	3 1 2 (3)	松本 正史
		3 2 1 (4)	田代 秀也	4 1 1 (4)	能井 賢治
		4 1 1 (4)	平林 理	4 2 1 (4)	田丸 正勝
		4 2 1 (4)	筒井 鋭達	4 4 1 (4)	篠原 康一

少林寺拳法部 年間計画

1月	上旬 中旬 下旬	寒稽古	7月	上旬 中旬 下旬	夏期 定期 訓練
2月	上旬 中旬 下旬	OB杯演武会	8月	上旬 中旬 下旬	夏期合宿 夏期休暇 本山合宿 (28日~1日)
3月	上旬 中旬 下旬	卒業式典 春季合宿・春季休暇	9月	上旬 中旬 下旬	
4月	上旬 中旬 下旬	入校式典 春季競技会	10月	上旬 中旬 下旬	全日本学生大会 (20日)
5月	上旬 中旬 下旬	関東学生大会 (6日) 昇段審査	11月	上旬 中旬 下旬	開校記念祭 体育競技会
6月	上旬 中旬 下旬	早慶防定期戦 (17日) 横須賀ブロック大会 (24日)	12月	上旬 中旬 下旬	冬季休暇

25周年記念特集

防衛大学校少林寺拳法部誕生の思い出

(奥平先生から25周年を記念してお送り頂いた書簡)

創設当時の状況を書いてほしいと請われるままにペンをとりました。まとまりのないものですが、お許し下さい。

何はさておき、現在の活動状況は素晴らしいの一言につきると思います。OB、現役の皆さんが一体となって少林寺の教義・技術を現実に表明した成果であると思います。同慶のいたりで、蔭ながら喜んでいきます。

創設当時の状況について、簡単に述べてみませう。

1、学生の反応

昭和40年4月、防大指導官として着任して驚いたことは、学生のクラブが非常に盛んに行われていることでした。陸上・部隊では到底考えられない。

少林寺拳法も当然あるだろうと聞いてみると、ないという返事でした。そこで、本山のある香川県出身の学生に少林寺拳法について尋ねてみると次のような返事でした。あれは、進学等を志す高校生はしていない。いうならば、一寸レベルの低い(?)、柄も余りよくない(?)人がしている!と。

一寸異様な感じがした次第です。よく考えてみれば自分も程度が低いのですから仕方がないのです。

○学生委員長(校友会活動)が、4大隊にいたので聞いてみると、これ以上部の数を増やしたくない。ましてや少林寺拳法を学生がやるといっても認めない。潰すという気配でした。(当人は、空手部所属でした。) 自主的に行うクラブの活動を差程までも束縛することはおかしい。よくないと思い、前記の香川県出身の学生に諮って何人かで考えてみることにした。

○集まった学生は7人位であったと思う。早速4大隊の屋上で練習を始めたのだが、たちまち14~15名集まるようになったのです。

陸幕にいた田村倉蔵先生も支部ができること(防大に少林寺拳法が定着すること)を非常に喜んでくれ、かつ応援をしていただいたものです。開祖にも田村先生と箱根の宿に伺い、この件を話すと大変喜ばれ、是非やってほしい旨語られたのが今でも印象に残っています。

2、学生の入会(入部)の状況

指導者格の4年生の数人と1年生が中心かと思っていたら3・2年生も入ってきた。防大在職中、この傾向は続いたように思う。一群(軍)・二群(軍)と絶えず選別されているクラブと違う点がはっきり浮彫りにされることになった。少林寺拳法部を行わずることによって「他人を立て、自分も立ち。自分も立たんとすれば、他人を立てよ・・・」「上級生は下級生を活かし、下級生は上級生をたて・・・」を具現化することになる。かくして、部員数は、2~3年にして他の部より多くなるということになった。

3、技術について

科目表は現在のように立派なものではなかったが、一応整っていた。それに従ってやるわけですが、指導する者もレベルが低く、現在のように一気動作・拳理体感等といった用語もなく、基本的な・原理的な動作が中心となっていた。科学的思考力のある防大

生のことだから、技術のマスターも早かった。昇級・昇段は条件を満たせば最短コースで手続きをした。目安としては、1年やれば初段に、4年卒業迄には三段をとる。学生は卒業時三段は、他の部との関係からか判らないが、仲々三段受験を遠慮したように思う。

特に印象に残っているのは、二年位やった学生が、少林寺拳法には教義・哲学があるといったことである。無手の格闘技(?)ととらえれば、限界を感じるもの当然です。その限界を感じた時に、救い・目標を与えたのが教義(考え方)だったのでせう。技術と教義(学科)は併行して行わなければならないゆえんです。

他の大学生や、隊員の動作と非常に差がある。他が悪いというのではなく、防大生の動作は極く自然で気取ったところもなく、かつピリッとしていて品があるように思う。これは開祖も事あるごとに強調していたものです。市民として、国民としてごく自然な行動ができることが必要だし、一寸違うところは、何んとなく品(品位)があった。これは、各々後に続く学生が、技術その他において極限に挑みつつ個人として、団体グループとして修練した成果であるのは、いうまでもありませんが年々継承されている結果であります。

5、防衛思想と少林寺教義

結論的にいうと、全く相通ずるものであります。少林寺の教義について云々する必要はありませんが、皆さんの学生生活・隊員活動・市民生活に活かしてほしい。積尊の残した道に縁を得たのです。法(ダーマ)は、キリスト教、道教等と別のものではない。人間の生きざまを教える原理で、将来人間が続くかぎり変わることはないと思います。

先手をとってはいけなく、後手であっても決して負けてはならない。「百戦百勝は善の善なるものなり」(孫子)決して争ってはいけなく、個人でも国家間においても、争いを仕掛けられないように内容の充実したものに努力を決して忘れてはならないと思います。

設立してから25年経っていると聞きますと、もうそんなになったかと感慨無量です。それもその筈、自分は老人社会に入ったのです。(法律上、老人といえれば55才以上のようなものです。)私は年をとってから少林寺を始めたので決して皆さんのように上手ではありません。しかし、やると決意した以上続けようと思い現在もやっています。(細く長く)結果はどうかと問われれば続けていて大変良かったと思っています。皆さんも続けて修業されることを希望します。

立派な防大教育方針のもと、自らつくった学生綱領を實踐徳目として行動している皆さんの前途は遙々たるものと信じます。部隊においても、市民としても期待される人物です。

物質的には恵まれた状況にある日本、(四法印)四苦八苦・四諦八正道等々について暇の折には一寸考えてみませう。人間が集まってできている社会です。その衝に当たる人の質によって大きく左右されるのも至極当然のここといえよう。

少林寺は、質のよい人間をつくることを目指しています。人造り、世直しのために。国・社会の宝とまではいわれなくとも、一隅(片隅)に明るさを与えることができれば幸せではありませんか。

思いつくままに書いて、まとまりのないものになりましたがお許し下さい。皆さんが立派な幹部になり、いや立派な人生を築かれることを念願してやみません。

防衛大学校少林寺拳法部 25 年史

年度	部員数	活動の概要
40	33	昭和40年5月6日当時第4大隊指導教官であった奥平正人2空佐の指導のもと少林寺拳法会発足。 芝生の上での練習は当時からであった。 (創設当時の状況は奥平先生の「寄稿」参照)
41	34	
42	42	
43	47	同好会として承認される。 関東大会(団体乱捕り) 準優勝 関東新人大会 優勝
44	64	関東新人大会(団体乱捕り) 3位 全日本大会(自由組演) 5位
45	77	関東大会(団体乱捕り) 準優勝 関東新人大会 優勝 全日本大会(団体乱捕り) ベスト8
46	79	関東大会(個人乱捕り) 準優勝 (自由組演武) ベスト4 関東新人大会 優勝 全日本大会(個人乱捕り) 優勝
47	83	関東大会(団体乱捕り) 優勝 全日本大会(" ") 準優勝
48	85	関東大会(自由組演武) 優秀 49. 2. 19部昇格
49	84	関東大会(自由組演武) 最優秀 全日本大会(組演武) 優秀 関東6大学乱捕り大会 優勝
50	82	全日本大会(団体演武) 最優秀 関東7大学乱捕り大会 準優勝

5 1	8 5	関東大会 (組演武) 全日本大会 (") 関東 8 大学乱捕り大会	最優秀 優秀 優勝
5 2	8 3	全日本大会 (組演武) (団体演武) 関東 1 0 大学乱捕り大会	優秀 最優秀 優勝
5 3	9 1	関東大会 全日本大会 (団体演武)	総合優勝 最優秀
5 4	1 0 2	関東学生演武会 自衛隊大会	参加 特別賞
5 5	1 1 1	全日本大会 (団体演武) 自衛隊大会	最優秀 特別賞
5 6	1 1 3	関東大会 (組演武) 全日本大会 (団体演武) 全国大会 (")	優良 優秀 最優秀
5 7	1 1 4	関東大会 (組演武) 全日本大会 (") (団体演武) 全国大会 (組演武) (団体演武)	優秀 優良 最優秀 優秀 最優秀
5 8	1 1 2	関東大会 (組演武) 全日本大会 (") (団体演武) 全国大会 (組演武) (団体演武)	優秀 最優秀 最優秀 優良 最優秀
5 9	1 1 0	関東大会 (団体演武) 全日本大会 (組演武) (団体演武) 全国大会 (組演武) (団体演武) 全自衛隊大会 (組演武)	最優秀 最優秀 最優秀 敢闘 最優秀 最優秀

60	110	全日本大会 (組演武) (団体演武) 国際親善大会 (一般団体の部)	最優秀 優良 敢闘賞
61	98	全自衛隊大会 (団体演武) (組演武) 関東大会 (組演武) (団体演武) 全国大会 (一般団体の部) 全日本大会 (組演武) (団体演武)	最優秀 最優秀 最優秀 優秀 優秀 最優秀 最優秀
62	89	関東大会 (団体演武) 市民大会 (組演武) (団体演武) 自衛隊大会 (団体演武) (組演武) 全日本大会 (団体演武) (組演武)	最優秀 最優秀 奉納演武 最優秀 最優秀 敢闘 最優秀
63	81	関東学生大会 (組演武：少拳士) (" : 級・衆敵) (団体演武) 神奈川県大会 (組演武：少拳士) 全日本学生選手権 (組演武：級・准・中拳士) (衆敵闘法の部) (団体演武) 横須賀市民大会 (級拳士の部) (有段者の部) 全自衛隊大会 (組演武：団演、段外 3段以上)	最優秀 優秀 優秀 最優秀 最優秀 最優秀 最優秀 優勝 優勝 最優秀

平成 元年	7 6	関東学生大会	(組演武：級拳士)	最優秀
			(組演武：少拳士)	優秀
			(有段者衆敵闘法の部)	敢闘
			(級拳士衆敵闘法の部)	優秀
			(団体演武)	優秀
		全日本学生大会	(組演武：准拳士)	最優秀
			(組演武：級拳士)	優秀
			(組演武：中拳士)	敢闘
			(有段者衆敵闘法の部)	最優秀
			(団体演武)	最優秀
		全自衛隊大会	(組演武：級・初二段)	最優秀
			(組演武：三段以上)	優秀
	(団体演武)	最優秀		
横須賀市民大会	(組演武：級・有段者)	最優秀		
	(組演武：級)	優秀		

編集後記

合掌

OBの皆様には、御健勝のことと存じます。防衛大学校始まってはや37年、少林寺拳法部も創設以来25年を数えるになりました。34期から政権を受け継いだ我々35期は現在、その輝かしい伝統の重みをひしひしと感じながら練習に励んでおります。

さてここに、防大少林寺拳法部部誌第16号の発刊を迎えましたことは、非常な喜びとするところであります。我々35期は、諸先輩方の築き上げられた伝統を受け継ぎかつ、時代の変化に対応しながら、日夜努力しております。平日は4時から6時まで総合体育館で練習しておりますので、横須賀においでの際は、是非お立ち寄りください。また御希望等ございましたら、御連絡下さい。

最後に、OBの皆様には、日頃からの御支援、御指導ならびに御協力誠に有り難うございます。

結手

平成元年度OB係

奥平会報



奥平会会長挨拶

合掌

新春の候 奥平会の皆様方にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび 4月1日付をもって14期の中原が会長職を引き継いでおります。どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、防衛大学校少林寺拳法部は、平成元年度をもちまして創立25周年の節目となり、その活躍も学生少林寺拳法界において名立たるものとなっております。これも、歴代部長、顧問、および師範の皆様方のご尽力の賜と感謝も一入ではありますが、伝統のうえにさらに新たな伝統を築こうという各期現役拳士の努力の成果であり、今後もさらなる発展を期待するものであります。

会員相互の融和団結と現役学生に対する支援を主目的に置く我が奥平会は会員数500名を超す校友会OB会有数の団体となっています。

昨年5月には創立25周年の祝賀会を訓練部長をはじめOB多数の参加を得て盛大に催すことができました。また、祝賀会に先立つ奥平会総会では奥平会会則も制定され、25周年を契機としての新たな発展への一步を踏みだしました。一方、不運な事故に見舞われた15期の山下 啓介氏への義援金の急募に際してはご多数のご賛同を得ることができましたことは、会長として心強まる思いを隠し得ません。この場を借りて御礼申し上げます。

これからも会員相互一層の融和団結をはかっていきたいと思っておりますので宜しくご協力をお願いいたします。また、後輩に対しましては、少林寺拳法を通じてともに鍛えた仲間として折りに触れ激励して下さいますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、OB皆様方の益々のご発展ご健勝を祈念し挨拶に代えさせていただきます。

結手

☆ ☆ ☆ 平成元年度奥平会活動概要

1 創立25周年記念式典を挙行

平成元年6月3日防大訓練部長、師範並びにOB多数の参加を得まして、品川の芝弥生会館において盛大に挙行致しました。ご支援、ご参加くださいましたOB各位のご協力に感謝致します。

2 平成元年度総会

(1) 会則の制定

奥平会の円滑かつ効率的運営のため一昨年より審議しておりました会則を総会において決議制定致しました。巻末に添付しましたのでご覧のうえ、ご意見等ございましたら本部宛に照会頂きたいと存じます。

(2) 部長交代披露

前部長丸川教授と新部長菅野教授との交代をご披露し、併せて丸川教授の永年のご苦勞に感謝して記念品を贈呈いたしました。

3 丸川教授”永年部長表彰”受彰

第37回開校記念祭におきまして、丸川教授が永年部長表彰をお受けになりました。このため、ご受彰をお祝いし、永きにわたるご指導に感謝いたしまして祝賀会を執り行ないました。

4 現役部員に対する支援

春季・夏季合宿、関東・全日本学生大会、全自衛隊大会等に対し支援を実施しました。ご多忙中、大会等の応援に駆け付けてくださいました皆様に感謝致します。

5 支部等の活動

檜町支部から度々学生の大会の応援に来ていただいておりますほか、札幌地区では地区懇親会を行なって親睦を深めているとの連絡がございました。

* * *

今後の活動予定

1 地区連絡網の整備について

昨年ご連絡しましたように、大人数となりました現在会員の連絡を個別にいたしますと労力的にも経済的にも効率が悪く、今後の会の発展を考えますと連絡網の整備が急務であります。

連絡網の案に世話人を指定して送付しますので、宜しくご協力をお願いいたします。連絡網が確立された地区から本部宛にご連絡くださいますようお願いいたします。

2 OB会費について

現在終身会費制度を実施しておりますが、今後会員が増大する一方で会費の収入はほぼ一定ということで、これからの会の運営に支障を来しつつある状況になっています。

連絡網の整備や現役学生に対する支援の縮小等支出を押さえることで対処可能な点がありますが、本会の発展を考慮いたしますと会費制度等の収入手段について今後検討していく必要を感じております。

本部において検討しご案内いたしたいと存じますが、ご意見等ございましたらご連絡くださいますよう宜しくお願いいたします。

3 木札の作製について

創立25周年となり、総合体育館に大道場を保有するようになりました現在、先輩各位の功績を思い部員の士気を高揚する目的で木札を道場に設置することを計画しております。

4 丸川前部長ご退官行事について

来年3月丸川教授の定年退官に際し、祝賀行事を計画の予定です。

案が出来次第逐次ご案内致しますが、他の件と同じようにご意見を頂きたい
お願いいたします。

5 その他

- (1) 名簿中、会員で所在不明の方、所属・連絡先の不明または間違いが、多数
あります。ご存じの方がありましたら、本部宛ご連絡ください。
- (2) 会員の慶弔に関する事項につきましては、会員皆様のご連絡に頼らざるを
えない現状ですので、ご本人もしくは近傍の会員の方からご一報頂きますよ
うお願いいたします。
- (3) 終身会費の領収を会報に掲載しておりましたが、全会員の納入が終了いた
しましたため、今回より掲載を取り止めます。今後は名簿への氏名掲載をも
って新会員に対する領収・会員登録と致しますのでご了承ください。
- (4) 本部連絡先

〒239 横須賀市走水1丁目10-20

防衛大学校訓練部第21中隊 石山1陸尉

TEL: (専用線) 8-40-2721

(局線) 0468-41-3810 内2721

*

*

*

平成元年度奥平会本部

会長 14A 中原 勇 (檜町3828)

副会長 18A 安藤 恒夫 (区 2715)

会計監査 24A 山川 純次 (区 2467)

幹事 25A 石川 哲也 (区 2733)

25F 坂本 卓己 (区 2103)

26A 石山 暁 (区 2721) 庶務

28A 藤原 修 (区 2443)

28A 岡澤 武彦 (区 2501)

28N 内田 公明 (区 2281)

29A 立林 剛 (区 2295)

幹事 29A 新保 博徳 (区 2421)

29A 水上 義仁 (区 2282)

29F 西村 政恭 (区 2295)

30A 池永 博和 (区 2409)

30A 岩熊 真司 (区 2501)

30A 中川 洋行 (区 2129)

30A 山口 芳正 (区 2160) 会計

平成元年度会計報告

(S63.12.24~H1.12.4)

年.月.日	摘 要	収入金額	支払金額	差引残高
S63				
12.24	繰越金	776,955		776,955
S64				
1. 5	山下先輩見舞金		109,472	667,483
H1				
1. 9	全日本学生大会旅費受領	25,440		692,923
2. 2	花輪及び弔電代(#35 久保田)		10,970	681,953
2. 4	部誌代金及び発送代		159,440	522,513
//	納会支援金		32,400	490,113
3. 1	転出者記念品代		25,000	465,113
3.10	OB会費入金	20,000		485,113
4. 1	下期利息	13,039		498,152
4.23	全自衛隊大会, 武専等顧問参加費		45,000	453,152
5. 7	関東学生大会支援金		68,000	385,152
6. 1	OB会費入金(#33卒業生)	810,000		1,195,152
6. 3	25周年記念祝賀会支援金		50,936	1,144,216
6.15	関東学生大会旅費受領	27,560		1,171,776
8. 4	夏合宿支援金		142,422	1,029,354
9. 8	記念品代		14,420	1,014,934
10. 1	上期利息	14,754		1,029,688
11.13	自衛隊大会支援金		150,000	879,688
11.26	全日本学生大会支援金		100,000	779,688
//	全日本学生大会参加顧問支援金		32,000	747,688
全般	通信費及び文房具代		57,526	690,162
//	顧問会及びOB会支援金		120,682	569,480
	合 計	1,687,748	1,118,268	569,480

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

(名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会（以下「奥平会」という。）と称し、防衛大学校少林寺拳法部（以下「少林寺拳法部」という。）に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

(1) 会報の発行

(2) 会員相互の融和団結の促進

ア 総会の開催

イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援

ウ 会員の慶弔に関すること

(ア) 結婚 … 祝電

(イ) 死亡 … 花輪、弔電

(3) 会員の修業の便を図ること

(4) 少林寺拳法部への支援

ア 合宿

イ 関東、全日本、その他の大会

ウ OB杯大会

(5) 会員による現役部員の激励及び応援等の支援に対する謝礼

基準 2000円

(6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

(経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

(会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。

なお、一旦納入した会費は返還しない。

(特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、その都度会員から特別会費を徴収する。

(本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校(少林寺拳法部)内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を役員会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学校長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く

- | | |
|------------|--------|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 1名 |
| (3) 幹事 | 本校在職会員 |
| (4) 会計監査委員 | 1名 |

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、顧問会との連絡調整にあたる。

- 2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。
- 3 会長は、原則として防大または防大近傍勤務の会員の中から前任者の推薦によって選考する。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき之を代行する。

- 2 会長は、防大勤務の会員の中から適任と思われる者を副会長に任命する。
- 3 会長が、防大内に勤務する場合、副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

- 2 会長は、防大に勤務する会員を総員幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

2 会計監査委員は、防大又は防大近傍勤務の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めるときは、臨時に召集することができる。

2 総会は、会員15名をもって成立する。

3 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

4 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記2名を選任する。

2 書記は、庶務と会計とに分掌して処理する。

3 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。

(1) 少林寺拳法部の試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す。

(2) 少林寺拳法部と協力して、年1回会報を作成し、会員に部の状況を知らせるとともに、大きな大会等主要な行事の際には、その都度状況を知らせる。

(3) 役員名簿を作成し、各役員に配布する。

4 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。

(1) 会費を徴収する。

(2) 会費納入名簿を作成する。

(3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。

(4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得た後、会員に通報する。

(会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

2 本会所管の会費は、确实なる金融機関(防衛庁共済組合を含む)へ預け入れるものとする。

(会費の使途)

第18条 本会の会費は、次のことにより使途するものとする。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員の慶弔に関すること
- (3) 少林寺拳法部への支援
- (4) 会員等による少林寺拳法部支援等に対する報償費
- (5) 奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認め、会長が役員会に諮り賛同を得た事項

(地区連絡網)

第19条 会務の円滑化を図るため、各地区に連絡網を整備する。作成単位は陸上自衛隊においては方面隊、海上自衛隊においては地方総監部、航空自衛隊においては航空方面隊、退職者については本部とする。作成責任者は各所在先任者とし連絡網作成の都度本部あて報告するものとする。

(退会)

第20条 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

(規則の改正)

第21条 本会の規則は、総会によって変更することができる。

2 前項の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附 則

この会則は、平成元年4月1日から施行する。

奥平会名簿

1 名誉会員

職名	氏名	所属	官職(内線)	連絡先
部長	菅野 等	化学教室	教授 2401	〒236 横浜市金沢区釜利谷町945-1 コスモ金沢文庫 ルシード411 Tel. 045-786-5877
師範	田村 倉蔵			〒187 小平市学園東町685-15 Tel. 03-261-0955
師範	神田 憲和			〒272 市川市鬼高2-12-5-705
前部長	丸川 武志	電気教室	教授 2285	〒120 足立区小台2-33-2 Tel. 03-919-5910
前校友 会会長	土田 國保 4代学校長			〒115 東京都北区西が丘1-28-4 Tel. 03-900-0409
元顧問	奥平 正人 (奥平浩哉)			〒828 豊前市小石原392
	松木 信			〒359 所沢市泉町908-21
	前原 良弘			〒252 藤沢市高倉950-5
	松本 宏			〒110 立川市若葉町1-13-2 けやき台団地 18-203
	宍戸 俊之	2術科学学校教務課長		〒237 横須賀市田浦港町24 Tel. 0468-22-3500
	森田 晃一	1術科学学校		〒432 浜松市西山町無番地 Tel. 0534-72-1111
	辻 勇雄	1術科学学校教官		〒737-21 安芸郡江田島町 Tel. 0823-42-1211
	今別府政美	1顧問総務		〒176 練馬区北町4-1-1 Tel. 03-933-1161-9
顧問	富野 博	防大41中隊		〒239 横須賀市走水1-10-20 41中隊 Tel. 0468-41-3810
	米村ゆかり	研究科(化学)		〒239 横須賀市走水1-10-20 研究科 化学 Tel. 0468-41-3810

2 正会員

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
10A	清水 葛男	札幌	北方訓練課長	
10A	森田 弘明	市ヶ谷	東方調査隊	
10A	黒野 耐	仙台	2 特科群長	
10A	松島 順一	楡町	陸幕人事補任課	
10A	三井 光夫	楡町	防衛研究所所員	
10N	岡崎 昭一			
10F	出田 弘一	奈良	援護室長	8-
10F	鈴木 勝人	浜松	第1術科学校	2581
11A	勝野 建明	日本原	1 3 特科2 大隊長	8-835-220
11A	須ヶ崎 了英	富士	富士学校企画室	2206
11A	広岡 征夫	小平	業務学校	
11A	水野 照夫	練馬	第1輸送隊	
11N	佐藤 正秀	小松島	松空	
11N	渡部 貞吉	舞鶴	開発隊開発1科長	
11F	清水 正睦	楡町	空幕運用課	3856
11F	田谷 俊之	府中	航空総隊装備部計画課	2241
11F	藤田 尚	市ヶ谷	空幕監理部総務班長	
11F	坂元 正昭	退職	松戸市馬橋 国際デジタル通信千葉地球局	0473-41-2988
11F	上田 勇作	退職	不明	
12A	新井 宏	死亡		
12A	衛藤 利治	健康	西方(装備)	
12N	佐藤 備凡	楡町	海幕副監察官	
12N	津川 保夫	徳島	202 支援整備隊副隊長	
12N	橋田 典幸	横須賀	潜水艦隊司令部	
12F	田中 紘治		調達実施本部大阪支部検査第1課	
12F	野口 昭徳	千歳	1 基地防空群	
13A	石原 薩雄	北熊本	8 師団4 部総括班	
13A	白石 克成	宇都宮	1 2 特5 大隊本部	250
13A	高木 俊之	岡山	岡山地方連絡部倉敷事務所	
13A	戸田 勝秋	守山	1 0 補給隊長	365
13A	西村 繁樹	楡町	内局2 課付	
13A	益田 修	沖繩	1 0 1 後方支援隊副隊長	
13F	松生 剛	春日	西方警備団司令部防衛部	381
14A	赤瀬 良二	富士	富士教導団第3科長	8-50-2063
14A	斎藤 正精	退職	〒214 八王子市館町館ヶ丘団地3-6-504	
14A	清水 重周	真駒内	1 1 師団司令部1 部長	
14A	清水 直正	長野	長野地方連絡部	
14A	中原 勇	楡町	防衛庁人事厚生課年金対策室	8-33-3828
14A	原田 敏男	日本原	1 3 特科連隊	
14F	今井 岸男	退職	岡山県浅口郡鴨町益坂1600-41	0865-44-6925
14F	高須 好美	退職	安城市篠目町古林1-19	
14N	森田 則広	佐世保	佐世保地方総監部防衛部2 室長	8-971-212
15A	井口 昌之	三宿	技術研究本部	
15A	上杉 和壽	相馬原	1 2 輸送隊長	
15A	大竹 義信	古河	施設補給処	
15A	岡 隆	美幌	6 普通科連隊	
15A	奥野 耕三	北恵庭	7 2 戦車連隊	
15A	長船 敬天	楡町	陸幕防衛部運用	2528
15A	加藤 三千夫	千歳	7 通信大隊	520
15A	遠田 雅美	旭川	2 対戦車ヘリコプター隊	
15A	土居 良治	芝浦	東北方面警務隊本部捜査科	598
15A	花房 晃夫	青森	5 普通科連隊	
15A	古川 照久	岩手	9 特6 大隊長	
15A	三嶋 利克	伊丹		
15N	今村 修二	呉	もがみ艦長	
15N	中島 栄一	楡町	海幕人事課	
15N	山崎 富雄	楡町	海幕人事課補任班	8-33-2943
15N	山下 啓介	横須賀	潜水艦隊司令部付	
15F	島田 徹	浜松南	2 高群8 高射隊長	
15F	福島 健治	霞ヶ浦	第3 高射隊	
15F	野間口 光夫	退職		
16A	内山 晃	楡町	中央資料隊2 科	
16A	岡田 正一	勝田	施設学校研究部	8-363-323
16A	斎藤 健治	北熊本	8 師団会計課長	
16A	佐々木 二郎	小平	業務学校	
16A	竹内 準一		大阪地方連絡部板東地区隊	06-782-0561

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
16A	富本 啓一	市ヶ谷	東方總監部人事課	5223
16A	平川 真士	岩手	9戦車隊長	
16A	芦岡 広明	檜町	陸幕防衛部運用課	
16N	阿部 哲夫	横須賀	プログラム業務隊	
16N	福島 一夫			082-223-2940
16F	小笠原 猛	入間	中警団中防群	
16F	八木橋 亨	和職		
17A	荒木 正弘	松町	陸幕調査部保全班	8-33-2509
17A	飯島 定雄	市ヶ谷	通信団本部	
17A	小池 保治	松町	陸幕教育部	2652
17A	小坂 正志	松町	中央資料隊	
17A	佐藤 吉信	神町	6飛行隊長	
17A	鈴木 陽	松町	陸幕防衛部防衛課	8-33-2532
17A	高橋 輝正	松町	技術研究本部	625
17A	富安 久芳	檜町	陸幕人事部(人計)	211
17A	中尾 吉孝	松町	陸幕防衛部運用課	2528
17A	広瀬 誠	松町	陸幕防衛部防衛課	2535
17A	福沢 賢	檜町	陸幕人事部(人計)	
17A	村田 芳次	久里浜	通信学校	
17A	吉川 雄二	富士	裝備開発実験隊企画班	2703
17N	久和 清幸	横須賀	たかつき副長	220
17N	塔岡 道夫	江田島	1術校教官	
17N	西嶋 正幹	下総	下総教育航空群第206教育航空隊	
17F	石渡 幹生	松町	幕僚長副官	8-33-3002
17F	稲見 潔	松町	空幕補給課	3102
17F	永富 信吉	三沢	北空	
17F	西岡 義博	鳥取	第7移動警戒隊	214
17F	松田 清明	松町	空幕施設課	
17F	細田 俊夫	退職	高崎市石原町1729-1	0723-27-3682
17F	澤 博海	退職	東広島市西条町吉行1-40	082-228-2111
17F	山本 剛	退職		
17F	前田 慎一	松町	空幕調1課	
18A	安藤 恒夫	防大	第1大隊付指導教官	8-40-2715
18A	上田 正文	那覇	1混成群本部	
18A	大西 正俊	松町	陸幕人事部補任課人事1班	2461
18A	門野 睦広	松町	統合幕僚会議3室	
18A	河野 基春	勝田	施設学校(学)	
18A	川原 彰	小平	業務学校	
18A	工藤 重見	松町	陸幕装備部武器化学課化学室	03-408-5211
18A	柴村 敬二	松町	陸幕装備部施設課	
18A	首藤 敏明	松戸	需品学校	
18A	千原 和人	松町	陸幕装備部需品課	
18A	中島 仁文	北恵庭	1戦群中隊長	
18A	麩沢 章雄	東千歳	東千歳業務隊	
18A	宮田 秀二	那覇	101飛行隊	
18A	渡辺 義幸	松町	陸幕調査部(調2)	
18N	岩瀨 秀樹	松町	統合幕僚会議3室	
18N	近藤 清司	防医大	防衛医科大学校学生課兼訓練教官	
18N	松井 博	松町	海幕教育課	2822
18N	平原 誠久	厚木	51空	
18F	笠原 久	松町	空幕教育課	8-33-3059
18F	勘米良 幸一	三沢	3空団整備群補給隊	2278
18F	長尾 斎	千歳	千歳管制隊	
18F	白数 裕樹	退職	京都市右京区西京極南大入町54-5	075-311-6815
19A	青柳 忍	仙台	東北方防衛部	
19A	迫田 真心	青森	9師団2部	
19A	園田 武典	市ヶ谷	陸幕調査部(調2)	
19A	津留崎 清宝	川内	8施設大隊	
19A	野村 俊朗	下志津	高射教導隊中隊長	
19A	広瀬 和紀	倶知安	29普通科連隊重迫中隊長	260
19A	古庄 和裕	富士	富士学校総務部総務課	2251
19A	東 光博	退職	浦安市入船39(株)フォーカス システムズ	
19A	前之園 敏雄	小郡	5施設団本部	286
19A	屋久 俊郎	習志野	第1空挺団特科大隊	
19A	横島 秋男	勝田	施設学校	
19A	三星 忠正	仙台	東北方調査隊	
19N	浜谷 守秀	松町	海幕防衛課	

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
19F	磯 光三	桧町	空幕監理課	
19F	小曲 一之	小松	6空団	
19F	郷田 進	三沢	北部航空方面隊司令部防衛部	
19F	田中 秀明	府中	航空総隊司令部施設課	
19F	藤井 和弥	桧町	空幕技術部技術第2課	3160
19F	松下 睦裕	桧町	空幕防衛部防衛課	
19F	吉本 博	百里	7空団	
19F	園山 栄一	退職		
19F	後藤 章	退職		
19F	杉山 昌宏	退職	春日市若葉台西3-40	
20A	浅原 昭夫	市ヶ谷	陸自幹部学校#17TAC学生	
20A	楠本 裕幸	福岡	19普通科連隊中隊長	
20A	小林 実	富士	装備開発実験隊車両課	8-50-2724
20A	榑 喜隆	桧町	陸幕防衛部防衛課	
20A	高岡 正明	千僧	3施設本部 3係	8-713-373
20A	仲原 久晃	桧町	陸幕装備部武器課	2588
20A	馬場崎 修	不明		
20A	半沢 康司	釧路	27普通科連隊中隊長	
20A	伏木 亨	富士	装備開発実験隊	
20A	山形 克己	桧町	陸幕人事部厚生課	2481
20N	木村 孝彦	八戸	第2支援整備隊	8-28-2531
20F	石田 裕	桧町	空幕装備課	3091
20F	岸本 昌文	岐阜	飛行開発実験団飛行隊教育班	2567
20F	高林 久	市ヶ谷	幹部学校付	
20F	岳川 清美	入間	中空司令部防衛部運用班	2233
20F	南園 宏	新田原	飛行教育隊	8-935-502
21A	大谷 昭次郎	富士	富士学校FOC学生	
21A	加藤 隆	山口	17普通科連隊4中隊長	240
21A	貫志 倫生	久里浜	通信学校第2教育部リーダー科	354
21A	桑原 幹夫	東千歳	1特団本部	
21A	湖崎 隆	桧町	陸幕人事計画課	
21A	沢井 研次	北熊本	42普通科連隊中隊長	
21A	園田 郁夫	富士	富士学校特科部	
21A	高橋 久泰	秋田	21普通科連隊中隊長	8-263-225
21A	野中 敏治	宇都宮	宇都宮業務隊	
21A	花田 一志	富士	富士学校普通科FOC学生	
21A	浜崎 勝	富士	富士学校 学生	
21A	渡部 誠		技術研究本部第1部信管第1研究室	
21N	城山 宏	退職		
21N	福岡 誠	横須賀	さちしお機関長	
21N	村田 隆齊	横須賀	はるゆき砲雷長	
21N	山口 次郎	館山	124航空隊	8-342-414
21F	木山 幸保	市ヶ谷	補給本部	
21F	黒沢 豊彦	市ヶ谷	補給本部	8-32-6370
21F	真田 雅章	入間	電子実験群	
21F	杉本 弥行	市ヶ谷	補給本部	
21F	沼田 幸夫	市ヶ谷	補給本部	
21F	平本 行	桧町	航空資料作業隊処理第2科	
21F	広江 勝馬	桧町	空幕監理部	3021
21F	松本 修司	桧町	空幕施設課	3141
21F	鍋島 和史	退職		
21F	朱 永武	留学生	シンガポール在住	
22A	永栄 文晴	立川	東方管制気象隊	271
22A	大本 健吾	勝田	施設学校	8-363-283
22A	財城 昭彦	東千歳	11普通科連隊中隊長	5986
22A	島松 正一	下志津	高射学校(学)	
22A	野口 利保	市ヶ谷	幹部学校学生	
22A	原田 有繁	岩手	9特科連隊第3科	8-232-363
22A	松村 利宏	市ヶ谷	東方防衛部	5262
22A	松本 俊二	札幌	北方調査部	203
22A	吉岡 聖二	熊本	熊本地方連絡部	8-963-339
22N	高塚 裕幸	桧町	長官官房総務課国際室	8-33-2150
22N	塚田 真司	横須賀	運用開発隊第3科	2741
22N	中谷 茂	横須賀	うきしま艇長	
22N	延近 保生	厚木	航空集団司令部	8-346-492

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
22N	坊垣内 広明	呉	ゆうしお機関長	
22F	永滝 盛重		大阪地方連絡部	
22F	木戸 文夫	小牧	救難教育隊	8-511-337
22F	小関 信広	入間	中防群プログラム班	6406
22F	酒井 伸	新田原	5空団301飛行隊	
22F	堂込 勝也	三沢	三沢ヘリコプター空輸隊	8-27-2848
22F	野村 勝広	大湊	基地業務隊長	8-223-256
22F	横手 裕明	檜町	空幕調査第1課	
23A	岩田 清文	富士	富士学校機甲科部戦術班	2516
23A	浦川 平次	善通寺	15普通科連隊本部	252
23A	奥野 和男	海田市	13輸送隊	
23A	谷崎 敏弘	朝霞	31普通科連隊中隊長	
23A	日高 政広	富士	装備開発実験隊	
23A	広塚 雅史	伊丹	中防衛部訓練課	8-711-265
23A	丸山 和宏	東千歳	7師団3部	226
23A	三木 元秀	習志野	空挺教育隊研究部	8-394-276
23A	若杉 治徳	守山	35普通科連隊	8-391-452
23N	井口 義定	檜町	海幕運用課	
23N	井ノ久 保 雄三	大湊	あおくも航海長	8-211-676
23N	数野 謙一	横須賀	はるゆき機関長	
23N	畑中 孝行	佐世保	くらま	
23N	山下 啓治	佐世保	せとゆき	
23N	四元 和生	横須賀	たけしお機関長	
23F	池邊 正	三沢	警戒航空隊	
23F	松尾 茂	入間	航空開発実験集団司令部研究開発部研究班	8-43-5228
23F	宮田 義章	檜町	空幕装備課	
23F	馬谷 誠二	退職		
23F	川添 一正	退職	鹿児島市山田町2440-92	0992-64-6359
23F	シンパロン	留学生	タイ	
24A	浅野 博義	富士	富士学校特科部	
24A	大久保 和美	福岡	4師団3部	
24A	太田 尚志	市ヶ谷	幹部学校学生	8-32-5986
24A	金田 辰美	富士	装備開発実験隊	8-32-2736
24A	芹川 慎介	市ヶ谷	中央資料隊付外務省出向	
24A	常田 義則	退職		
24A	中村 健蔵	檜町	陸幕防衛部研究科分析室	8-33-2537
24A	西津 護	俱知安	29普通科連隊教育隊	270
24A	瀧 靖隆	土浦	武器学校研究部第2科	8-353-496
24A	堀之内 誠	勝田	施設学校	
24A	稲葉 真志	高遊原	8飛行隊	
24A	山川 純次	防大	機械助手	
24A	山田 雅己	前川原	幹部候補生学校	
24N	小川 勝志	呉	なるしお機関長	
24N	佐伯 泰啓	船越	41護衛艦隊	
24N	中村 早速	大湊	あきぐも	
24N	長谷川 陸	退職	川口市青木2サニークレスト川口508	0482-54-3827
24N	松田 俊宏	厚木	第6航空団	
24N	山本 浩	退職	北九州市小倉南区湯川3-8-16	093-921-4252
24F	佐藤 秀幸	入間	中部警戒管制団	
24F	清水 尚志	入間	4補	
24F	中館 利光	市ヶ谷	空幕調査第1課	
24F	藤城 希恭	小松	第6航空団	
24F	出口 潔	入間	中部警戒管制団(基業群)付	
24F	山田 真一	築城	第8航空団304飛行隊	315
25A	若本 順二	美幌	1特科群101特科大隊第3中隊	8-182-280
25A	石川 哲也	防大	331小隊指導教官	8-40-2733(2633)
25A	大内 元	土浦	武器学校教務課	258
25A	岡元 正一	富士	富士学校特科部	
25A	小野寺 靖	北熊本	8師団司令部3部	231(232)
25A	小菅 康雄	土浦	武器学校研究部2科	8-353-495
25A	佐伯 義次	富士	富士学校普通科部レンジャー班	8-50-2307
25A	重石 義幸	市ヶ谷	幹部学校学生	
25A	田草川 茂人	市ヶ谷	幹部学校学生	
25N	内山 哲也	江田島	1術科学校(中級学生)	
25N	龍谷 貴年	江田島	1術科学校(専修科)	
25N	河村 正雄	横須賀	2術科学校(艦艇用兵課程)	

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
25N	杉原 耕二	舞鶴	舞鶴警備隊魚雷艇13号	8-771-453
25N	高島 修	鹿屋	1航空隊付(中級学生)	
25F	安芸 一	春日	西部航空隊司令部	8-911-224
25F	尾崎 信朗	浜松南	2術科学校第1教育部第1科	8-55-2941
25F	坂本 卓己	防大	学生課補導係	8-40-2103
25F	藤吉 恵一	新田原	5空団装備部	241
26A	石川 毅	美幌	6普通科連隊3中隊副長	8-182-239
26A	石山 暁	防大	214小隊指導教官	
26A	内海 浩	霞ヶ浦	立川業務隊付(NEC出向中)	0425-24-9321(内301)
26A	及川 幸夫	富士	装備開発実験場	
26A	小野 長門	檜町	檜町業務隊付(東工大)	0298-22-6134
26A	金子 寿弥	土浦	武器学校教育部	469
26A	河原 敏和	練馬	1通信大隊	
26A	坂野 佳彦	北千歳	71戦車連隊第3科	436
26A	滝沢 由則	退職	札幌市中央区南12西16 滝沢 由子方	
26A	谷 俊彦	玖珠	4対戦車隊	8-946-251
26A	友部 隆	都城	43普通科連隊1中隊	212
26A	中村 明弘	退職	北九州市小倉北区中井3-4-17	
26A	松田 正行	駒門	1機甲教育隊	
26A	山下 清隆	旭川	2高射特科連隊	
26A	吉田 英紀	松山	4陸そう教育隊	8-837-213
26A	吉田 吉宏	千僧	3施設大隊中隊長	
26N	市坪 秀明	横須賀	プログラム業務隊	8-49-2433
26N	上野 真一郎	館山	122航空隊	
26N	相良 達也	那覇	5航空隊	
26N	佐藤 寿紀	江田島	1術科学校(中級学生)	
26N	杉山 義和	大湊	13掃海隊おおしま	
26N	道満 誠一	江田島	1術科学校(中級学生)	
26N	平野 勝	鹿屋	1航空隊付き(中級学生)	
26N	水野 伸彦	八戸	2支援整備隊	2582
26F	池島 暢也	入間	4補整備技術課	8-43-4252
26F	澤木 優輔	退職	横浜市金沢区町屋町15-3	045-785-8458
26F	福島 睦	千歳	2航空団	
26F	星川 敦	築城	8航空団	
26F	米子 誠二	入間	4補	
27A	川村 治彦	習志野	空挺教育隊	
27A	舞原 博己	東千歳	1電子隊	
27A	行事 正	稚内	301沿岸隊	
27A	大居 一之	淵野辺	技術研究本部(4研)	8-359-325(262)
27A	大場 基美雄	鹿追	5対戦車隊	
27A	濱田 秀	守山	35普通科連隊HM中隊	8-531-375
27A	長合 友造	霞ヶ浦	霞ヶ浦業務隊付(筑波大)	
27A	大石 隆一	市ヶ谷	中調隊	
27A	緒方 禎浩	退職		
27A	山之上 哲郎	えびの	24普通科連隊	
27A	角南 良児	滝ヶ原	普通科教導連隊	
27A	津田 浩司	湯布院	3特科群	
27A	米山 多住志	市ヶ谷	中央資料隊	
27A	馬場 政和	退職		
27N	中里 巧	鹿屋	1航空隊	
27N	山田 洋士	厚木	51航空隊	8-346-653
27N	小川 昌宏	横須賀	プログラム隊本部	
27N	英口 俊介	舞鶴	舞鶴地方総監部もちづき航海長	117
27N	益田 徹也	熊本	西方総監部	298
27N	五領 隆男	横須賀	ゆきしお	
27F	足立 諄聡	築城	8B航空団	
27F	甲斐 新太	入間	飛行点検隊	8-43-4802
27F	兼古 修	築城	8航空団304SQ	315
27F	高野 宗治	芦屋	13教団整備補給群整備隊	440
27F	堀田 隆治	岐阜	2補給処	8-54-2345
27F	元木 啓嗣	府中	航空支援集団司令部装備部装備班	8-48-2525
27F	蔵田 衛人	退職		
27F	沢村 徹	退職	足立区足立4-13-15千壽コ-ポ205	
27F	西山 利昭	退職	東京都立川市高松町2-25-28	
28A	畦地 勇	神町	20普通科連隊2中隊	8-261-338
28A	足立 哲彦	土浦	武器教導隊	233

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
28A	岡沢 武彦	防大	防大研究科	
28A	北原 秀章	前川原	幹部候補生学校	
28A	古賀 敏明	真駒内	1 1 特科連隊3大隊5中隊	
28A	幸野 秀明	旭川	2 特科連隊5大隊10中隊	
28A	鶴見 耕市	退職	横浜市戸塚区品濃町553-1 J-1405	045-821-7962
28A	永井 大介	退職		
28A	日高 信行	青森	5 普通科連隊本部	272
28A	藤原 修	防大	防大研究科	
28A	三好 邦夫	東千歳	7 特科連隊1大隊本部管理中隊	465
28A	矢野 光宏	幌別	1 3 施設群第3科	8-143-232
28A	湯浅 悟郎	北熊本	4 2 普通科連隊2中隊	
28N	内田 公明	防大	防大研究科	
28N	河津 稔	呉	なるしお補給長	8-811-738
28N	鈴木 巧	退職	栃木県宇都宮市緑4-1550-84	
28N	横須賀 直忠	横須賀	ゆうばり	
28N	西小路 謙	厚木	3 航空隊	
28F	今井 邦夫	浜松	1 術科学校2教7科	8-55-2549
28F	神山 隆			
28F	白水 裕人	三沢	4 5 警北方群防管隊	2243
28F	末広 勝己	那覇	8 3 航空隊	
28F	山田 顕嗣	新田原	5 空団	
28F	越水 達哉	退職		
28F	中川 勝也	退職	秦野氏曾屋683-37 607号	0463-83-3772
28F	平島 一	退職	関千代田ソフト	0488-61-3314
28F	吉田 正己	退職		
28F	米田 健二	退職		
29A	坂井 辰也	海田市	1 3 通信大隊1中隊	8-832-288
29A	大川 浩史	久留米	幹部候補生学校1候補生隊	8-955-287
29A	立林 剛	防大	防大研究科	8-
29A	古川 靖人	福岡	4 武器隊	8-941-374
29A	甲斐 正人	名寄	4 高射特科郡317高射中隊	378
29A	中村 浩之	東千歳	7 高射特科連隊2高射中隊	504
29A	佐竹 右幾			
29A	駒井 紀美彦	大宮	化学学校教育部	437
29A	津田 芳明	札幌	北部方面通信群	
29A	浅川 玉樹		日産自動車追浜工場	
29A	古田 清悟	函館	2 8 普通科連隊3中隊	8-124-230
29A	新保 博徳	防大	防大研究科	
29A	蛭原 良雄	八戸	9 武器隊	
29A	詫摩 安広	旭川	2 施設大隊	443(543)
29A	水上 義仁	防大	防大研究科	
29A	青柳 光			
29A	小屋敷 秀彦			
29N	山崎 浩一	横須賀	しらね	
29N	川上 和美	退職		
29N	柏木 均	横須賀	ゆきしお	
29F	熊田原 修	静浜	1 1 教団	
29F	西村 政恭	防大	防大研究科	
29F	高松 実	那覇	8 3 航空隊修理隊エンジン小隊	
30A	池永 博和	防大	防大研究科	
30A	岩熊 真司	防大	防大研究科	
30A	魚住 晴康	立川	東方航空隊1飛行隊	
30A	魚野 浩晴	退職	東京都大田区大森西2-11-8第2莖荘2	
30A	笠島 広文	退職		
30A	亀山 淳	前川原	幹部候補生学校	
30A	菅野 俊夫	防大	研修生(東工大)	
30A	土屋 甲吉	帯広	1 3 施設群	
30A	中井 馨	退職		
30A	中川 洋行	防大	防大研究科	
30A	中村 大介	姫路	3 特科連隊4大隊7中隊	8-716-287
30A	中森 雅美	北宇都宮	東方航空隊12飛行隊	305
30A	西 良典	帯広	4 普通科連隊	
30A	林 宏幸	普通寺	8 施設	
30A	福田 洋司	伊丹	神戸大 伊丹市緑ヶ丘6-59	0727-75-3978
30A	船津 達男	退職		
30A	宮本 善弘	高遊原	西方航空隊8飛行隊	8-966-234

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
30A	矢納 裕二	健軍	西方会計隊	
30A	山口 芳正	防大	防大研究科	
30N	鈴木 達雄	退職	三菱重工(株)	
30N	時久 寛司	厚木	3術科学校(AMO)学生	8-391-299
30N	百崎 邦彦	下総	3術科学校(AMO)学生	
30N	湯浅 秀樹	佐世保	あさぎり	
30F	栗田 尚幸	松島	4空団21飛行隊	418
30F	黒田 健一	退職		
30F	後藤 豊	退職		
30F	高橋 親敏	大湊	北警団42警戒群監視管制隊	217
30F	西本 彰雄	佐渡	中警団46警戒群	215
30F	本田 猛	退職		
30F	吉田 憲司	見島	西警団17警戒群	240
31A	池ノ本 八郎	北熊本	8武器隊	488
31A	石丸 威司	帯広	5施設大隊2中隊	8-181-387
31A	大島 龍一郎	退職		
31A	亀山 慎二	今津	10戦車大隊	8-732-238
31A	久保 敏浩	北恵庭	1戦車群304中隊	254
31A	佐野 光	餌ノ目	東北方航空隊	
31A	椎野 健治	八尾	中方航空隊	
31A	田口 直志	上富良野	北方武器隊304武器野整備中隊	
31A	辰巳 竜悟	仙台	2特科群110特科大隊1中隊	8-241-437
31A	辻 政幸	真駒内	11特科連隊	
31A	中川 博英	北熊本	8補給隊	8-963-336
31A	橋本 哲彰	丘珠	北方航空隊11飛行隊	
31A	久富 博幸	富士	戦車教導隊	
31A	藤岡 登志樹	弘前	39普通科連隊	
31A	松井 健一	日本原	13特科連隊3大隊6中隊	
31A	吉武 辰明	千僧	3輸送隊	456
31N	蝦名 伸治	大湊	きたかみ	
31N	大井 一史	小月	201教育航空隊	
31N	岡田 岳司	呉	呉地方總監部22護衛隊	
31N	甲斐 義博	呉	呉地方總監部42護衛隊やまぎり	152
31N	久保田 修一	佐世保	やまぐも	8-971-113
31N	迫田 浩文	佐世保	せとゆき	
31F	阿部 博文	築城	8航空団	
31F	北村 克昌	千歳	2航空団整備群装備隊	
31F	小南 良人	浜松北	1航空団35飛行隊	8-55-2229
31F	近藤 良彦	浜松北	1航空団臨時T-4飛行教育隊	8-55-2229
31F	渡沢 寛	小松	6航空団	
31F	野沢 隆一	浜松北	1航空団35飛行隊	8-55-2229
32A	市来 道啓	板妻	34普通科連隊	344
32A	上山 聡	海田市	46普通科連隊	
32A	大塚 和也	札幌	北部方面会計隊	
32A	大塚 裕治	旭川	2高射特科大隊	
32A	小田 益男	日本原	13特科連隊	
32A	小原 真二	退職	航空大学校	0985-51-3281
32A	川崎 誠二	八尾	中部方面飛行隊ヘリ隊	
32A	境 孝明	山口	17普通科連隊	
32A	更工 雅彦	退職	奈良県橿原市和田町32-4	07442-7-0423
32A	神保 俊昭	退職	和歌山県東牟婁郡古座町中湊531	07357-2-0766
32A	田口 芳郎	退職	世田谷区上祖師谷1-1 和田ハイツ102	03-538-1587
32A	竹内 利治	八尾	中部方面航空隊	
32A	中村 裕亮	帯広	4普通科連隊1中隊	441
32A	平田 雄嗣	えびの	24普通科連隊	
32相	福重 毅尚	馬原	12戦車大隊	
32相	福元 昌二	久留米	4特科連隊	
32A	山地 伸一	高知	2混成団施設隊	8-862-228
32N	河上 康博	江田島	練習艦隊	
32N	澤本 武朝	江田島	練習艦隊	
32N	後藤 幸英	退職	調布市若葉町3-9-3 YHP佃台寮	
32N	松尾 研志			
32F	植村 茂己	三沢	3航空団	
32F	鈴木 憲	小松	6航空団	
32F	高橋 秀雄	入間	中部航空警戒管制団	
32F	山口 直人	防府	12飛行教育集団90-A	

期別	姓名	基地等	所属部隊等	TEL
3 2 F	渡部 誠	防府	1 2 飛行教育集団9 0 - B	8 - 8 8 3 - 2 2 4
3 3 A	椎葉 博正	退職	芙蓉総合リース 〒270松戸市常盤台 松尾寮	
3 3 A	山本 真也	善通寺	8施設群	
3 3 A	富樫 勇一	美幌	6普通科連隊	
3 3 A	細野 容司	遠軽	2 5 普通科連隊	
3 3 A	川崎 英幸	退職	練馬区北町3日興パレス東部練馬3 0 5	
3 3 A	久永 智	退職	岡山県倉敷市大内1 0 7 3	
3 3 A	柿野 忠嗣	仙台	東北方面武器隊	
3 3 A	郡山 直樹	湯布院	3特科群	
3 3 A	近藤 哲也	東千歳	7特科連隊	
3 3 A	中塚 修一	東千歳	1 1 普通科連隊	
3 3 A	大津 勝利	湯布院	3特科群	
3 3 A	池田 誠喜		1 武器隊	
3 3 A	谷口 喜一郎	退職	鹿児島県鹿児島市大明丘2 - 2 9 - 8	
3 3 A	御厨 広之	松戸	2 高射特科群高良台 高射運用	
3 3 N	関口 雄輝	江田島	幹部候補生学校	
3 3 N	高橋 真一	江田島	幹部候補生学校	
3 3 N	町島 敏幸	江田島	幹部候補生学校	
3 3 N	山本 裕一	江田島	幹部候補生学校	
3 3 N	鶴澤 直樹	江田島	幹部候補生学校	
3 3 N	西窪 純	江田島	幹部候補生学校	
3 3 F	田中 勝也	退職	大阪府和泉市尾井町1 - 2 5	
3 3 F	荒木 俊一	与座岳	南警隊与座岳 要撃管制	
3 3 F	高草木 浩寿	浜松北	教育集団司令部付操縦学生	
3 3 F	増田 友晴	浜松北	教育集団司令部付操縦学生	
3 3 F	新崎 秀樹	浜松北	教育集団司令部付操縦学生	
3 3 F	岡本 秀文	築城	8航空団 航空整備	

National *Defence* *Academy*
Yokosuka
Phorinji